



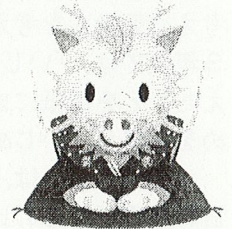
和田っ子通信

令和5年度 No. 9
 福井市和田小学校だより
 発行日 令和6年 1月9日(火)
 〒918-8238 福井市和田 1-2-1
 TEL:22-8817 FAX:22-6121

辰年は、成長・発展・行動の年に……

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします、と、おだやかに新年を迎えられたと思ったのもつかの間、隣県、石川県能登地方で最大震度7の地震が発災し、本県も最大震度5強の揺れに襲われました。皆様のご家族やご親戚、ご友人は無事だったでしょうか。また、2日には、羽田空港で航空機衝突事故が起こり、衝撃を受けました。被災された方にはお見舞いを申し上げるとともに、亡くなられた方のご冥福を祈りたいと思います。この2例を通して、命を守る行動と日頃からの訓練、危機管理意識の大切さを改めて感じました。本校としても児童の安全・安心のため、再度、校地校舎の点検や危機管理マニュアルの確認を行ったところです。

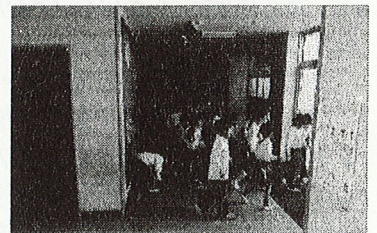
このような大きな災害や衝撃的な事故が起きると気分が落ち込みがちですが、今を生きる者として被災地に思いを寄せつつも、普段どおりの生活をするのが大事だと思います。児童にも、これまでどおり元気に明るく笑顔で学校生活を送ってほしいと思っています。ご家庭でもよろしくお祈りします。(文責：勝木)



ある日の出来事から

訓練は本番のように 備えあれば憂いなし ～「第2回避難訓練」～

11月21日、今年度2回目の避難訓練は、休み時間に自由に過ごしている中で地震が発生したとの想定で行いました。児童は一次避難の後、雲一つない青空の下、校庭に二次避難しました。校長講話では、和田小オリジナル「すき」を加えた約束「おかしもすき」(押さない、駆けない、しゃべらない、もどらない、すばやく、聞く)でふりかえり、全部できた児童だけに拍手を送りました。それは、命を守る訓練は満点でなくてはいけないからです。そして、それらは、普段の学校生活の中で培われることを話しました。ふりかえると、避難の際、しゃべってしまう児童が多かったように思いました。

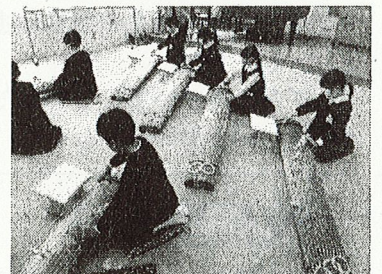


そこで、その8日後の全校朝礼時、抜き打ちで、再度避難訓練をしました。ふりかえりを行うと、ほとんどの児童が全部達成していました。このことは校長講話をしっかり聞いていた、忘れていなかった証でもあるので、児童をほめました。それでも守れなかった児童にも励ましの言葉をかけました。そして、訓練であっても真剣に取り組む「訓練の名人」になってほしいと伝えました。

日本古来の楽器にふれて

～4年生「和楽器体験」6年生「雅楽体験」～

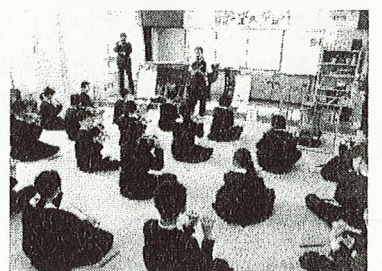
11月24日、4年生が、箏や尺八などの和楽器について学習しました。グローバル化が進展するこれからの時代を生きていく児童にとって、早い時期から和楽器の直接体験を通して、我が国や郷土の音楽に親しみ、我が国や郷土の音楽のよさを実感することは大きな意味があります。



箏の学習では、爪をつけ、弦をはじく練習から行い、楽譜を見ながら童謡「さくら」の演奏に挑戦しました。また、尺八の学習では、尺八の名前の由来やリコーダーとの違い、楽譜の読み方などを教わりました。

鑑賞の時間では、お正月の時期によく流れる、箏と尺八の合奏曲「春の海」、尺八の「鶴の巣ごもり」、箏の重奏「さくら」など講師の先生方から聞かせていただきました。

また、11月29日には、6年生が、雅楽体験をしました。三管両絃三鼓と呼ばれる8種類の楽器のうち、ひちりきと龍笛という管楽器を体験しました。ひちりきは縦笛、龍笛は横笛です。リコーダーとは、音の出し方がちがうのでコツをつかむまでは苦勞していましたが、次第に音が出せるようになりました。その後、楽譜の読み方も教えていただきました。西洋音楽とちがって音符がないので、音の長さや音階を、口伴奏で音程をとって曲を覚えるのだそうです。最後にひちりきを使って雅楽の曲に挑戦しました。



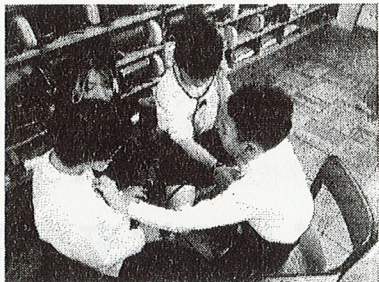
自他のいのちや心について考える ～和田小学校 人権についての取組～

昭和23年(1948年)12月10日、国際連合第3回総会において、「世界人権宣言」が採択され、この日を「人権デー」と決めました。我が国では、人権デーを最終日とする1週間(12月4日から12月10日)を「人権週間」としました。本校でも、この人権週間に合わせ、さまざまな取組を行いました。

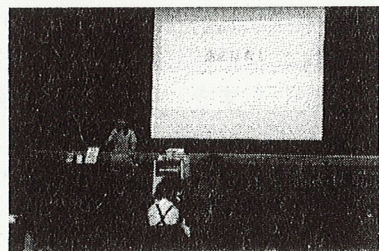


その一つに、自分を大切に思い相手のことも認めたり、相手の立場に立って、考えや気持ちを考えたりすることをめあてに、ビデオを見て意見を交換しました。3年生では、「いじめはゼツタイわるい!」というビデオを見ました。視聴後、考えたことを用紙にまとめたあと、タブレットに打ち込んで、他の児童と意見を交換していました。はっきりといじめを嫌悪し、いじめに加担せず、ためらわず先生や大人に助けを求めるとの意識を高めたようです。

12月1日には、4年生が、いのちについて考える授業を行いました。前半は、日野原重明さんのビデオを見ながら授業は進められました。「いのちって何?どこにある?」との問いかけに、「心臓」や「胸」を指す児童に対して、「心臓は血液を送るポンプだから、いのちではない。いのちとは、見えないもの。大切なものは本当は目に見えないもの」との話でした。そして、生きていること、いのちを実感するために、聴診器で心拍数を数えました。それから、「自分のいのちを大切にする」「他人のいのちも大事にする」「いのちは、時間である」「人のために自分の時間を使うことの尊さ」「許すことの大切さ」について、お話がありました。児童からは、「限られたいのちの時間を、人を助けたり協力したりして楽しく過ごしたい」とか「いのちの時間はいつかは止まるから、残された時間を大切にし人のために過ごしたい」、「許すことは、ぼくは時々できなくてやり返したくなるから、それを無くして友だちともっと仲よくなりたい」という感想がありました。



そして、12月8日のフリー参観では、県の事業「親子で学ぶ道徳講座」とタイアップして、授業を全校道徳として行いました。各学年とも、いのちとそのつながり、個性、家族、感謝等の題材から、「いのち」について考えました。保護者にも参加していただいて、授業を行う学年もありました。その後のPTA教育講演会では、やしる恵利さんを講師に「命のはなし～命の大切さ、そして自分らしさ～」というテーマで、しいちゃんが生きた113日間と親の心情について話を聞きました。



日頃の感謝の思いを伝えました ～ふれあい 感謝集会～

12月13日の朝の活動は、日頃お世話になっている、和田交番のおまわりさん、見守り隊の方々、学校昼食調理員さん、施設技師の方をお招きしての「感謝集会」でした。皆さんを拍手で迎えた後、インタビューをしました。話を伺いながら、皆さんが児童のことを考えながら取り組んでいることが分かりました。



また、児童がお礼の言葉を述べた後、みんなで「ありがたうの花」の歌をプレゼントしました。

してもらっていることを当たり前だと思わずに、いつも感謝の気持ちを持ち続けてほしいと思います。

校長室から

児童玄関前に、1993年に和田小学校創立100周年を記念して建てられたモニュメントがあります。それに備え付けてある太陽電池式の時計は、数年前から正しい時間を表示できなくなっていました。これまで児童や保護者、地域の方々にはご心配とご不便をおかけしてきました。学校としましては修理について検討してきましたが、あまりにも修理費が高額であり財源の確保が難しいことから、修理を断念しました。

その後の対応について業者に相談し、時計盤表面に校章を印刷した耐候性ラベルを貼ることにしましたので、ご理解とご了承をお願いします。

